

東北大学附属図書館報

木這子



BULLETIN OF
THE TOHOKU UNIVERSITY LIBRARY

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

附属図書館のオリエンテーション活動

情報サービス課参考調査掛 湯 本 智 子

1. はじめに

図書館の機能・施設・設備は年毎に整備され、所蔵資料は蓄積の増大と共に各所に分散して配架されている。また資料の形態も大部分は冊子体であるが、近年少しずつ電子化された情報媒体が増加している。このような状況の下で、利用者が自分自身で「利用案内」等の印刷物を頼りに利用法に習熟し、効率よく文献等を検索することは容易ではなくなっている。

本稿では施設案内、図書館サービスの説明、文献検索や所在調査の手法、検索用端末機操作法の講習など、利用者への援助活動をまとめて「オリエンテーション」と言うこととする。オリエンテーションは本館では情報サービス課参考調査掛が担当しており、附属図書館のこのような活動をより多くの方々に知っていただきたく、まだ手探りの状況であるが、ここに今年度を実施したオリエンテーションの概要を紹介すると共に、今後の課題を考えてみたい。

2. 新入生オリエンテーションの概要

平成4年度の新入生オリエンテーションの日程と参加者は表-1のとおりで、本館大視聴覚室で実施した。対象者への周知は、4月9日の教養部オリエンテーションにおいて配布する資料中に「図書館の利用について」の

項を設けてある。自由参加を前提としており、学部のオリエンテーションと重複した日もあったので、新入生数約2,700人中、約10%の参加であった。内容は、図書館利用案内のビデオ放映が約20分とOHPによる蔵書検索用端末機の操作法及び基本的な検索法の説明を行った。しかしその後の状況、つまり日常の参考業務の中で操作についての個別指導の占める割合の多さから思量して、デモンストレーションを伴った説明が必要であったと痛感しており、来年度は改善を図りたいところである。

表-1 新入生のためのオリエンテーションの日程と参加者

	4/9	4/10	4/13	4/14	4/15	計
10:00	—	—	3	12	0	15(人)
11:00	—	—	6	16	6	28
12:00	—	—	15	13	22	50
13:00	26	31	10	3	3	73
14:00	33	13	30	6	7	89
15:00	6	10	0	0	0	16
計	65	54	64	50	38	271

注) オリエンテーションの1回当たり所要時間は40分。

3. 文献探索オリエンテーション

企画の周知は年間のスケジュール(図-1)を館内と文教法経四学部、各分館の掲示板に掲示するとともに、図書館速報誌「らいぶら

り・NOW」により全学に広報を行った。年間の日程及び科目を決めることにより、利用者が都合の良いときに希望する科目に参加できるよう計画した。会場は2号館ゼミナール室で行い、参加者は表-2のとおりである。オリエンテーションの科目毎に紹介してみたい。

文献探索オリエンテーション

附属図書館（本館）では、レポートの作成や卒業論文執筆に役立つ文献探索オリエンテーションを行います。内容は、検索ツールの使い方や学内・学外資料の利用方法などです。さらに、今回よりオンラインやCD-ROMによる検索についても説明いたしますので、お気軽にご参加下さい。尚、参加を希望される方はオリエンテーション開始時間の5分前までに附属図書館（本館）レファレンスデスクにおいで下さい。

開催日程は下記のとおりです。

日 時	内 容
9月29日（火）10:30-11:30 15:00-16:00	参考文献の見方、探し方 二次資料の使い方 （同一内容の説明を1日2回行います。）
10月 6日（火）10:30-11:30	CD-ROM（朝日新聞記事データベース）の使い方
10月20日（火）10:30-11:30 13:30-14:30	参考文献の見方、探し方 二次資料の使い方 （同一内容の説明を1日2回行います。）
11月 4日（火）15:00-16:00	DIALOG/JOISによる情報検索
11月18日（水）10:30-11:30 13:30-14:30	参考文献の見方、探し方 二次資料の使い方 （同一内容の説明を1日2回行います。）
12月 1日（火）15:00-16:00	NACSIS-IRによる情報検索
12月 9日（水）10:30-11:30 13:30-14:30	参考文献の見方、探し方 二次資料の使い方 （同一内容の説明を1日2回行います。）
1月12日（火）15:00-16:00	国文研データベースによる情報検索
1月26日（火）10:30-11:30 13:30-14:30	参考文献の見方、探し方 二次資料の使い方 （同一内容の説明を1日2回行います。）
2月 9日（火）15:00-16:00	参考文献の見方、探し方 二次資料の使い方

蔵書検索端末の利用案内は毎週金曜日9:30より行っています。

詳しいことはレファレンスデスク（内線：川内2430）にお問い合わせください。



附属図書館

図-1 オリエンテーションのポスター

（1）参考文献の見方、探し方

ガイダンスの内容を次の3本の柱から構成した。

① カード目録とオンライン目録を使いこなして、求める資料を的確に検索出来るようになること。特に、本館のカード目録の構成を中心に説明。

② 文献中にある引用文献を的確に読み取れるようになること。引用文献の表記には、多

様な記述のしかたがあるために、雑誌と図書の区別、著者、編者、論文著者の判読がしにくい場合も多いからである。

③ 学外に資料を求める場合、総合目録により所在を検索出来るようになること。学術情報センターの開発したシステム・NACSIS-IRを、今のところ利用者が自由に利用できない現状、又は収録されていない部分では、冊子体の総合目録を駆使することが、必要となる。この三本の柱を一時間のオリエンテーションで成し遂げるには、参加者の図書館資料に対する習熟度の差もあり、時間的に無理があったと反省している。さらに、二次資料の使い方として雑誌記事索引、Social Science Citation Indexを説明したが、もう一歩進んだレベルの文献検索なので、今後対象を特定してプログラムを組みたい。

（2）オンライン情報検索

DIALOG, JOIS, NACSIS-IR, 国文研データベースは現在のところ校費支弁の可能な利用者に限ってサービスしているので、各システムの紹介と人文社会科学系の簡単な検索例題を実演するのにとどめた。NACSIS-IRのデータベースは雑誌記事索引、研究者ディレクトリと科学研究費補助金研究成果概要、経済学文献索引データベースのファイルを実演した。利用に際してはシステムへのアクセスは職員が行い、原則として利用者に行ってもらうのが望ましいのだが、実際は約90%が職員による代行検索である。そのため分館を含めて参考職員は情報検索に関する知識と技術への精通が常に要求される。

（3）CD-ROMの使い方

本館所蔵のCD-ROMの中から利用が最も多い朝日新聞HIASKを説明した。CD-

ROMは操作が簡単なこと、ゲーム感覚で検索できることから月平均10人以上の利用者がいるが、オリエンテーションへの参加者は少なかった。取り上げたCD-ROMが学習や研究上で差し迫った必要性がなかったためかもしれない。

表-2 文献探索オリエンテーションの参加者

科目名	教官	院生	学生	職員	計
参考文献・二次資料	2	2	16	8	28 (人)
CD-ROM	2	1	0	0	3
DIALOG, JOIS	1	1	2	0	4
NACSIS-IR	2	1	1	4	8
国文研データベース	0	0	0	1	1
計	7	5	19	13	44

4. 村井ゼミにおけるオリエンテーション

学部等の授業に組み込まれて図書館職員が行うオリエンテーションは以前にも単発的にはあったが、教育学部村井教授の授業における図書館資料探索のオリエンテーションは毎年継続していることが特色である。共通の課題であるため最も効果的な結果が期待できる上、担当する図書館職員にとっても大変勉強になり、村井教授の図書館に対する理解の深さに敬意を表したい。

5. 分館におけるオリエンテーション活動

医学分館では、医学二次資料の独特な検索法を中心にした資料探索ガイダンスを授業やゼミ単位で行っている。北青葉山分館、工学分館では、教官が学部進学者を研究室単位で引率し、専門資料の検索法を指導している。農学分館においては、有機化学の学生実験のカリキュラムの一環として、chemical abstracts 検索法の講義が応用生物化学科約

35人の学生に対して行われる。講師は教官である。自然科学系のサービスを担う分館においては、教養部の改組に伴って積極的なオリエンテーション活動が必要となってくるだろう。

6. 今後の課題

本館におけるオリエンテーションの参加者は予想より少なかった。その原因として、PR不足が考えられる。又は、図書館が企画したオリエンテーションに期待するものが無かったのかもしれない。しかし、レファレンスデスクで対応する個別利用指導の件数は、年間実に900件にも及び、指導内容に共通するものも多いので、これらのことは極力オリエンテーションに代える一方、個別対応の充実を図っていききたいものである。同時に授業やカリキュラムに沿ったオリエンテーションの要望を教官から出して頂いて、計画的にプログラムを組み、ゼミ単位、グループ単位で実施したい。このようなオリエンテーションが最も効率的な試みであると考えます。

7. おわりに

レファレンスサービスとは、利用者と資料を仲介する機能が第一であり、最終的には一人一人の利用者のリクエストに応えることであるが、附属図書館がこの部門に割ける人員はそう多くは出来ないで、出来るだけ利用者のセルフレファレンスをお願いする次第である。来年度は事前の広報活動に努めると共に、開催時期の設定・内容・方法などを見直し、役にたつ機能的なオリエンテーションを目指して改善を図りたいと考えており、ご意見をお寄せいただければ幸いです。

(ゆもと・ともこ)

図書館紹介のTOOL作成について

情報サービス課参考調査掛 高 木 忠

1. はじめに

東北大学附属図書館の本館・分館は原則として、各々その位置するキャンパス内の利用者をサービス対象とする。

本稿は、本館の利用者用案内として作成したいいくつかの資料について、その一端を紹介するものである。

2. 「利用案内」

この案内は、研究・教育の支援機関として、本館がどんなサービスを提供できるかをごく簡単にまとめたもので、昭和48年の教養部分館統合以来、主に新入生に配布されてきたものである。(付表1参照)

統合以来の本館の「利用案内」は、①昭和49-50年の新本館の揺籃期、②文系四学部の川内移転から業務機械化前まで、③コンピュータ導入以降、の三つにグループに分けることができる。新館開館当座は、新築に伴う予算の裏付けもあり、利用者へのPRも比較的容易にできた時期であった。ために研究者向けにも「図書館利用ハンドブック 1974」が刊行された。(以後改訂版は刊行されていない。付表1参照。)

利用案内は、新入生の図書館利用オリエンテーションが軌道に乗った昭和51年、そのための参考資料としての性格をもたせ大幅に改訂された。以来12年の間表紙下部の帯の色を

換えながら常に最新の情報をもりこんだ案内として刊行されてきた。

利 用 案 内

1993



東北大学附属図書館本館

昭和63年、コンピュータ導入を機に、大きさも上着のポケットにも入るA5変形版(たて長)の折本形式のものとした。図や写真もカラーとし、説明は極力簡潔なものにした。これに対しては、大学の図書館案内としての品格から反対する意見もあったが、案通り刊行され今日に至っている。

3. 「図書館ガイド・シリーズ」

平成元年5月、かねてから要望のあった研究者向け利用案内をガイド・シリーズの名で試作したものである。2号館の開館を翌年に

ひかえ「利用案内」よりも一層詳しい内容を持ち、研究者にも利用してもらえる案内を目指して企画したものであった。これは、2号館開館時に資料の再配置が行われ、それにともないサービスに変更が生ずることとが十分予測されたからでもあった。

構成は、利用目的に応じた14のテーマからなり、それぞれが独立したパンフレット形式をとっている。(付表2参照)ワープロで原稿を作成し、謄写版刷りとする方法を採用した。これは、①部分的な変更が容易であること、②改訂の際にできるだけ経費を必要としないことを念頭においてのことであった。

平成2年4月、説明があまりにも繁雑な内容のテーマを5つに分割し、1テーマあたり長いものでも図面を含めて9頁以内とした改訂版を作成した。ガイドは、利用者がいつでも自由に手に取って見れるよう、テーマ毎に空箱に入れられレファレンス・コーナーの入口付近に置かれた。

ワープロによるこのような方法は、容易にしかも安価に訂正版が作れるメリットがある一方で、作図は糊とはさみの手作業のため予想以上に手間取り、出来上りも稚拙のそしりを免れない。

4. 「新入生のための図書館利用案内」

本館ではじめてビデオテープによる利用案内を作成したのは昭和56年2月であった。(このことについては『大学図書館研究』No. 19 (1981.11) に拙稿がある。)

昭和56年4月、最小限の機材でしかも最も原始的な編集方法で試作したのがこれである。全くの素人の初めての試みであった。しかし日に数回、一週間同じことを繰り返し説

明する負担に比べれば、スイッチを押すだけで何度でも等質の案内ができるテープの利用は担当者の負担を軽くすることになった。翌年内容を圧縮し改めて新入生のためのオリエンテーション用とした。

テープには、本館の概要、カウンターの機能、利用の方法、更には本館の所蔵する稀覯書を収録し、説明を加えた。当初は、物珍しさも手伝い、特に宣伝もしなかったが、終ってみたら新入生の三分の一近くが画面に見入ってくれた年もあった。

平成元年、更に質の良い案内を目指して製作を業者に委託した。館内撮影、ナレーションの収録、編集などの作業を専門家に依頼し、4月のオリエンテーションで公開した。2号館開館には部分的な撮り直しと再編集で対処し、改訂版を作成した。このテープが現在も使われているものである。

ビデオテープによるオリエンテーションは、直接話しかける機会が失われるため、ややもすれば一方的な、その上単調な印象を与える。昭和62年のコンピュータ化に際しては、端末機の手操作案内をOHP原稿に基づいての口頭説明を付け加え今日に至っている。

5. おわりに

以上、現在本館が利用案内用として使用している印刷物・テープについてその作成の経緯を簡単に説明した。

「利用案内」、「ビデオテープ」はともに新入生をその主たる対象として作成されたが、現在では、本館を訪れる学外の利用者、見学者にも提供されている。いずれそのために全く別個のものが考えられるべきだろう。

(たかぎ・ただし)

(付表1) 利用者案内の変遷

年	案 内 書 名 な ど	大 き さ ・ 頁	備 考	オ リ エ ン テ ー シ ョ ン
昭和49	図書館利用案内 学生版1974	A 5 36 p.		口頭説明 (閲覧各掛)
	図書館利用ハンドブック1974	A 5 100 p.		
50	図書館利用案内 学生版1975	A 5 60 p.	表紙カラー化	〃
51	利用案内1976	A 5 12 p.	(帯の色を毎年変える)	〃 (参考調査掛)
52	〃 1977	〃		スライド追加
53	〃 1978	〃		OHP追加
54	〃 1979	〃		〃
55	〃 1980	〃		〃
56	〃 1981	〃		VTR(自家製)
57	〃 1982	〃		〃
58	〃 1983	〃		〃
59	〃 1984	〃		〃
60	〃 1985	〃		〃
61	〃 1986	〃		〃
62	〃 1987	〃		〃
63	利用案内1988	A 5 変形12 p.	全頁カラー化・	〃
平成 1	〃 1989	〃	折本形式	VTR(業者製作)
	図書館ガイド・シリーズ	B 5 ・14テーマ		
2	利用案内1990	A 5 変形12 p.		〃 (改訂)
	図書館ガイド・シリーズ	B 5 ・18テーマ		
3	利用案内1991	A 5 変形12 p.		〃
4	〃 1992	〃		

(付表2) 図書館ガイド・シリーズ

No.	テ ー マ
1	利用者登録
2-1	カード目録の検索 1. 本館の目録
2-2	〃 2. 分類目録
2-3	〃 3. 著者名目録
2-4	〃 4. 書名目録
2-5	〃 5. 雑誌目録と個人文庫目録
3	端末機による目録検索
4	資料の利用
5	貴重図書の利用
6	レファレンス・サービス
7	開架閲覧室の利用
8	自由閲覧室の利用
9	ブラウジング・ルームの利用
10	研究閲覧室の利用
11	相互利用と文献複写
12	研究個室・視聴覚室・ビデオ視聴室・ゼミナール室の利用
13	マイクロ・リーダー室・マイクロ資料室の利用
14	学外者の利用

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

**このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。**

平成4年度大学図書館職員長期研修に参加して

情報サービス課閲覧第二掛 吉 川 和 幸

標記研修が筑波の図書館情報大学を主会場として7月13日～31日までの3週間の日程で開催された。中堅職員を対象とした研修で受講者は42名、その約八割が国立大学からの受講者である。

第一週の初日に自己紹介があり、その後受講者の親睦を図るため懇親会が開催された。講義は大学図書館の管理、現状、サービス、著作権、健康管理等全般的なもので、一日中席に坐りただ講義を聞くという単調さのためか午後の講義は睡魔との戦いでもあった。

企業・官庁出版物、公共資料、仕様書、会議資料等のように部数が少なく、書誌的データが不明確な灰色文献の探索、収集および活用をどうすべきかという「Gray Literatureの収集活動」、大学がどうあるべきか大学の自己点検、評価また図書館の機能を強化するには今後学内LANが中心となるべきという「大学図書館行政」などが興味をそそる講義であった。

第二週に入ると会場を筑波から東京に移動し、学術情報センターでの講義、見学。都内の東京工業大学、慶応大学、国立国会図書館国文学研究資料館等の見学が相次いだ。午前と午後の見学場所が異なるため、昼休み中の暑い最中での移動は地理に疎い者にとって辛い行動でもあった。

学術情報センターでは実際に端末に触れ、NACSIS-IRを利用した情報の検索の実習。未経験の検索であるが、ベテランの受講生に助言をいただき何とかこなした次第である。サービスが開始されたILLシステムについ

てはスライドを使用したわかりやすい説明のためか臚げながら理解できたようである。

国立国会図書館では平日の日中にも拘らず利用者の多さに驚き、慶応大学新館の地上7階地下5階という規模は羨ましい限りであった。国文学研究資料館は約50万点の近世史料を所蔵しており、史料書庫の見学の際、係員が「劣悪な環境（高温多湿）で貴重な史料が傷んでしまう。新改築の予算がなかなかつかない。」と嘆いておられたのが印象的であった。

再び筑波に戻っての最後の週は、筑波大図書館での講義、見学および二次資料を使用したレファレンスサービスの実習。グループ別に分けられ、CitationIndexを使用してマニュアル検索と機械検索を行い比較検討した。そして受講者を「資料保存のあり方」「今後の図書館サービスの方向」等のテーマ別に分け、グループ討議が始まる。各図書館の事情、本音が飛び交い大変有意義だったと思う最終日に文部省企画官が臨席し、グループ討議の結果報告があり、次いで閉講式に移り無事終了した。

研修の目的のひとつは学術情報に関する最新の知識を教授することであり、コンピュータシステムに関連する講義が多かったように思う。大学図書館の機械化も一段落し、通信サービスを介して新しい図書館サービスである学内LANによる情報ネットワーク、電子資料として大容量を誇るCD-ROM等のニューメディアの活用など大学図書館は変革期を迎えようとしていることが痛切に感じられた。

（きっかわ・かずゆき）

平成4年度総合目録データベース実務者研修を受講して

情報管理課洋書目録情報掛 小 野 元 子

さる平成4年11月16日から12月11日の4週間にわたり、平成4年度第2回総合目録データベース実務研修が学術情報センターで行われた。本研修は、講師養成を目的として始められたが、今回の研修でインストラクターも200名を越えた。

講義の内容は、(1)学情システム全般にわたるもの、(2)レポート作成、(3)参照MARC変換に関する解説、(4)雑誌の登録実習、(5)NACSIS-IRの解説、(6)目録講習会の講師、などである。

スケジュールの前半は、講義とレポート作成であったが、参加館が年々多くなるのに伴い、品質管理が難しくなっているようで、重複書誌が跡を絶たないようである。その原因として考えられるのが、コマンドミス、書誌階層などの解釈の相違、検索ミスなどであるが、やはり共同分担目録を推し進めていく以上は、十分な検索、かつ、既存データの尊重が重要であると感じた。

また、参照MARCの実習では、それぞれのMARCがソースデータからどのような仕組みで各データを抽出し、参照ファイルとして位置づけられているかを学んだ。これらは、登録業務のMARC流用入力時に、どのような点に留意すべきかを知るうえで大変参考になった。

そして、前半のメインであるレポート作成であるが、今年から課題がなくなったそうで、いくつかの大きい外枠を与えられ、その中から課題を決めていくものであった。どの班でも連日活発な討論が為されていたようであ

る。しかし、これによって、他大学の現状や書誌データの現状などを少しでも多く知ることができたと思う。

後半は目録講習会や講習会用のテキスト作成などであった。実際に講習会に参加して受講生の質問を受けてみると、「普段は何げなく見過ごしているものでも、質問されるとうまく説明できない」と、いった具合だったが、これによって、講義を行う上での内容の流れや時間の配分など、ある程度見当がついたと思う。

昨年からはILLも稼働し、共同利用ということがますます重要になってきたが、利用者に誇れる、また、使い応えのあるデータベースになるよう願うと共に、目録業務に携わる者の一人として今後少しでもお役に立てればと思う。

滞在期間およそ1カ月、大変長く感じられた研修も、つかの間の出来事に思えるこの頃である。日常業務を離れ、およそローカル側では見ることのできないシステムの裏側の一端をかい間見せていただいたことは、システムをより良く利用する上で大変有意義であったと感じている。また、研修を通して全国各地に多くの友人を得られたことも大きな喜びの一つであった。

最後に、このような研修の機会を与えてくれた職場の方々、また、お世話いただいた学術情報センターの皆様に紙面を借りて感謝の意を表し、報告に代えたい。

(おの・もとこ)

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

第47回東北地区大学図書館協議会総会

標記総会は、平成4年9月17日～18日の両日、富士大学を当番館として、花巻温泉ホテル花巻を会場に、加盟館53館から39館74名の参加を得て開催された。

当番館富士大学図書館井手係長の司会により開会され、富士大学図書館田辺館長の開会の挨拶、重倉学長の歓迎の挨拶、常任幹事館東北大学菊地館長の挨拶があり、議事に入った。本総会では、いわき明星大学図書館と東北芸術工科大学図書館の加盟申請が承認され、加盟館数は55館となった。

永年勤続表彰は、元宮城県農業短期大学附属図書館主査大沼桂子氏、元宮城教育大学附属図書館整理係長本間賢二氏の両氏に対し、長年にわたる図書館活動ならびに本協議会への貢献を賛え、常任幹事館長より所属図書館長を介して退職時に表彰状と記念品の伝達が行われた旨の報告があった。

総会における主な協議事項は、以下のとおりである。

1 協議事項

(1) 総会当番地区(館)の予定について

総会開催地区は、平成5年度の福島地区まで決定され、平成6年度以降の当番地区について、次のとおり確認された。

第49回 平成6年度 宮城地区

第50回 平成7年度 秋田地区

第51回 平成8年度 山形地区

第52回 平成9年度 宮城地区

第53回 平成10年度 青森地区

(2) 研究室長期貸出資料の利用について

山形大学から提案理由の説明があり国・公

・私立の各館では、①それぞれの利用規則に則り運用しているので、各館での取扱が異っていること②大学図書館の大きな課題として、何度も議論されてきているが解決されていないこと等活発な意見の交換が行われた。

一方学術情報センターのILLシステムの整備充実に伴い、相互利用業務の増加が予想されるので、研究室長期貸出資料の利用について教官とも充分連絡を密にして、トラブルが生じないように、また、相互利用についてもスムーズに推進することが確認された。

(3) 大学図書館の自己点検・評価に関する検討状況等について

弘前大学から提案理由の説明があり、これに対して各大学での自己点検・評価検討委員会の設置の状況や検討状況について報告があった。

また、国立大学の図書館では、大阪大学を中心として自己点検・評価の基準を検討する委員会が設置され、現在検討が行われているため、その結果も参考にして図書館の自己点検・評価を行うこととした。

2 記念講演

本総会における記念講演は、田辺広富士大学教授・図書館長の『大学図書館の課題－岸本改善計画－』と題した講演が行われ、岸本博士の図書館の改善に対する情熱に参加者一同多大な感銘を受けた。

3 その他

第48回総会は、福島地区が担当し、郡山女子大学が当番会場館として開催することとなり、高橋館長の挨拶が行われた。

平成3年度 参考図書購入報告

参考図書費（文部省参考図書購入費，本学共通経費，文・教・法・経四学部部間共通費等）によって平成3年度に購入し，本館レファレンス・コーナーに配置した参考図書のうち主な資料を下記のとおりお知らせします。

◆和 漢 書◆

1. 朝日新聞記事総覧 ー大正前期編ー
朝日新聞記事総覧 33巻～41巻 ー昭和（戦後Ⅶ～Ⅷ）編，別冊人名索引ー
2. CD-BOOK, 86/90（図書内容情報' 86.2～' 90.12）
3. 近代雑誌日次文庫 第7～10巻 ー国語・国文学編ー
4. 日本著者名総目録 [1927/1944]
第1～10巻（個人著者名・団体著者名・書名索引）
5. 日本著者名総目録 [1989/1990]
第1～4巻（個人著者名・団体著者名・書名索引）
6. 政府定期刊行物目次総覧 第1，3～6分冊

◆洋 書◆

1. Early English books, 1641-1700:
a cumulative index to units 1-60 of the microfilm collection.
Vol.1～9(Author, Title, Subject & Wing number and reel position indexes)
2. Internationale Bibliographie Zeitschriftenliteratur aus allen Gebieten des Wissens.
'75/'90 Register Schlagwörter.(A-F, G-O, P-Z)
3. Research centers directory. 16 ed. Vol.1～2
4. Social sciences citation index, 5 year cumulation.
1966-1970 : part 1～4
5. Social sciences citation index. 1971, 1972 annual

◆その他主な継続受入資料◆

1. 国立国会図書館所蔵洋図書目録
2. 国立国会図書館蔵書目録
3. Books in print. (Authors, Titles, Publishers, Subject guide)
4. The British Library general catalogue of printed books.
5. CD-HIASK'90(朝日新聞記事データベース)
6. Comprehensive dissertation index supplement. (annual)
7. Internationale Bibliographie Zeitschriftenliteratur aus allen Gebieten des Wissens.
8. Les livres disponibles. (Subject, Auteurs, Titres)
9. National faculty directory.
10. Social sciences citation index.
11. Verzeichnis lieferbarer buecher ::German books in print.

平成4年度東北大学附属図書館職員総合研修会

標記研修会は、11月16日（月）午後1時半より2号館（新館）大会議室に於て、東京大学附属図書館事務部長浅野次郎氏と本学庶務部研究協力課岩崎久美子氏を講師に迎えて開催された。

「日米の大学図書館と今後の図書館員」と題された浅野氏の講演は、大学設置基準の改正に伴う図書館の自己評価の在り方や、大学間の相互協力、人材の確保と養成、図書館のサービスと著作権の問題など当面する課題について述べられた。また、日米大学図書館会議の内容についても紹介があり、今後の図書館を考える上で示唆に富む内容であった。

岩崎氏の「ユネスコとバリ」では、ユネスコの活動や組織機構、歴史、財政等の全般的な内容についての説明と、職員の採用や評価、

ポスト争いの中にも見られる国家間の利害や力関係を反映した組織運営などについて述べられた。また、氏自身が派遣されることになったいきさつや仕事の内容、他の職員との交流、職場の環境とバリでの生活の様子などについて紹介があった。いずれも体験に基づくお話であるので、具体的でわかり易く大変興味を惹かれる内容であった。

今回の講演は、大学間の学术交流などにより益々国際化する情報環境社会の中で、日常の業務だけでなくもっと広い視野に立って思考することの重要性を再認識させられ、大変有意義なものであった。改めて講師のお二人に感謝する次第である。

（総合研修委員）



会 議

◎学 内

4.10.15 第2回附属図書館商議会

協議事項

(1) 完全週休二日制実施に伴う図書館の対応について

(2) 図書館資料の保存及び不用決定について
報告事項

(1) 平成4年度図書館運営費（共通経費）について

(2) 平成4年度図書館資料費の配分について

(3) 平成5年度外国雑誌の購入について

(4) 第39回国立大学図書館協議会総会について

(5) 第47回東北地区大学図書館協議会総会について

(6) 各分館からの報告

(7) その他

4.12.16 第3回附属図書館商議会

協議事項

(1) 図書館資料の保存及び不用決定について

(2) 教養部改革に伴う図書館関係規程の検討委員会の設置について

(3) 平成6年度概算要求事項について
報告事項

(1) 附属図書館の整備充実の実施経過と今後の課題について

(2) 国立大学図書館協議会理事会について

(3) 第66次国立七大学附属図書館協議会について

(4) 各分館からの報告

(5) その他

5.1.26 第4回附属図書館商議会

協議事項

(1) 図書館資料の保存及び不要決定について

(2) 教養部改革に伴う図書館関係規程の改正について

報告事項

(1) 各分館からの報告

(2) その他

◎学 外

4.12.9 大学図書館長との懇談会

（於：国立国会図書館）

編 集 後 記

「図書館広報の改善」ということでスタートした木這子の編集も、2年目をむかえました。今回発行の館報は3/4号合併とし、図書館サービスの基本である図書館利用に関するテーマをとりあげました。機械化に伴い図書館の利用者へのサービスも大きく変わり、情報の範囲も大変ないきおいで広がってきています。こうした状況をきちんととらえながら、的確な図書館利用の指導をしていくことが、利用者へのサービスに直接つながるのだろう

と思います。

この最終号は皆様に気軽に目を通して頂けるような内容にという広報委員全員の願いで編集しました。これからも読んでみたいと思って頂けるような図書館報を編集していきたいと思っています。（H.M.）

広報委員

佐藤 嗣 佐藤定夫 京極菊子 佐藤博子
佐藤義則 對島庸二 中島 甫 前田裕子
松本義正 湯本智子

東北大学附属図書館報「木這子」 第17巻 第3-4号（通巻63号） 発行日 平成5年3月31日

発行人 岩元忠幸 広報委員長 佐藤 嗣

発行所 東北大学附属図書館 仙台市青葉区川内 電話 代表 222-1800（2403）